

3次元の裁断が創り出す 個性溢れる空間を目指して



イベントなどでも活躍するベニヤハウス



特別な工具や技術がなくても組み立てることができる

事業概要

平成30年度
補正

釘のいらない建築工法「ベニヤハウス」の 高精度加工体制の確立及び事業化

慶應義塾大学の研究室が震災時に建設した「ベニヤハウス」の工法を活かし、「特設イベントハウス」やニーズの高まっている「小屋」などの規格製品化に取り組む。合わせてその組立てパーツの卸売のルートを、国内の工務店中心に構築する。

被災した合板を活用し 自分たちで作る交流の場

「ベニヤハウス」は、石巻市の合板工場が震災で浸水した際、慶應義塾大学の小林博人教授が代表を務める（株）小林・楨デザインワークショップが販売出来なくなった合板を使って、開発したセルフビルドの家だ。被災した沿岸地域の交流施設や漁師のコミュニティハウスとして使われている。合板からパーツを切り抜き、相互に差し込みながら柱や梁をつくり組み立てていく。特殊な工具や釘などを使わず簡単に組み立てや解体ができるため、職人の手を借りず低コストで、地域住民が自分たちの

「家」を建てること出来る。真栄工芸は「ベニヤハウス」2棟目から建設に携わった。



3次元的な裁断により自由な表現を実現するNCルーター

デザイナーが作り出す空間の 表現の幅が広がる

店舗内装や住宅のリフォーム、リノベーションを手掛ける真栄工芸の設立は1967年。自社工場を持ち、受注から設計、施工までワンストップで行い、メンテナンスも素早く対応出来る。簡単に自分達で「組立て」「解体」が出来る「海の家」は、2016年から展開。ベニアハウスの特性を活かし「特設イベントハウス」として規格製品化するため、新たなNCルーターを導入した。データ化された図面を読み込み、曲面や曲線などの3次元的な裁断が出来るようになり、完成品の幅が広がった。「当社は内装も家具もオーダーメイドです。このNCルーターの導入により、以前はお客様の望むデザインでは難しかったものも、実現出来るようになりました。この機械の可能性を引き出すようなデザインに出会えればと思います」と代表取締役の熊谷 一 さん。将来的には会社として企画力・提案力を伸ばし、新製品を世に出していきたいと語る。



入力された図面データからパーツを裁断する



曲面や曲線の裁断が可能になった



人材育成にも力を入れている



木と樹脂で川の流れを表現したリバーテーブル



利府町の名産の梨の木を組み込んだ什器

「ベニヤハウス」だけでなく 家具や什器も展開

「木工とアクリル・樹脂の工場を併設しているのも当社の強みです。木と樹脂の両方を使った特殊なテーブルなども作ることが出来ます」と制作部の高橋課長。特に化粧品店の什器は、地元だけでなく全国各地から注文が入るようになり、お客様からの信頼を得ています。「ベニヤハウス」の組み立てパーツの卸売を目指しており、多くの国内工務店と繋がっていききたいと考えている。



真栄工芸株式会社
代表取締役 熊谷 一 氏

会社の強みは何ですか？



営業、設計、現場監督、看板と家具の工場があるので、店舗内装なども一括で受けられます。工場を持っていることでメンテナンスもクイック対応が出来ます。今回の機械の導入で、若手の育成にも力が入られる体制が出来ました。

座右の銘を教えてください



自分で考えたものですが「二兎追わぬものは一兎も得ず」。ひとつのことしか出来ないから、他はやらないというのではなく、いろいろなことにチャレンジして、その中からいいものを見つけ出していこうということです。